

『自主研修報告書』

作成；中津市議会議員 大塚 正俊

【日向市】

- ・日時；2026年4月15日（水）午後2時～3時
- ・場所；日向市駅周辺
- ・内容；日向市駅周辺区画整理事業について

1、はじめに

日向市駅のある中心市街地は、県北の生活文化の交流拠点であるとともに、従来から日向・入郷地域における都市的サービスの提供の場として発展してきた地域です。

しかし、全国的に中心市街地活性化の必要性が叫ばれるように、日向市駅周辺においても、既存大型商業核施設の撤退に加え、郊外への大規模小売店舗の新規立地により駅前商店街の人通りが少なくなり、その結果、空き店舗率も20%を越えるなど、衰退が進んでいました。

このため、市内中心部の鉄道を高架化する連続立体交差事業とともに、日向市施行の土地区画整理事業と商業集積に向けた各種の事業とを一体的に行うことにより、駅を中心としたオリジナル都市空間の形成と同時に、まちの賑わいの創出が進められています。

2、日豊本線日向地区連続立体交差事業



「事業概要」

事業主体	： 宮崎県
高架化延長	： 約 1.7km
踏切除却	： 3箇所
交差道路	： 9箇所
全体事業費	： 約 90 億円
事業期間	： 平成 10～20 年度

駅周辺の交通渋滞の大幅な解消等、安全で円滑な交通の確保と線路東西地域の一体的な発展を主目的として、平成 10 年度に国の補助事業

として採択され、都市計画決定や事業認可などの手続きを経て、高架橋・新駅舎工事が完了し、平成 18 年 12 月に高架切替が行われました。

(1) 駅舎等のデザイン

連続立体交差事業を施行していくにあたり、まちづくりのコンセプトや駅周辺の土地区画整理事業と連携した事業展開を行っています。

このため、連続立体交差事業の高架部や駅舎部等について、詳細設計に着手する前の段階から、景観・建築・都市計画の専門家や住民代表等様々な立場の方々からの意見を聴取しデザイン計画に反映させるべく、「日向地区都市デザイン会議」を設置し、景観に配慮したま

ちづくりを進めて来ました。

デザインの検討にあたっては、日向・入郷地域の景観や駅部を含む高架沿線の土地利用、また、高架下の有効な利活用等を踏まえながら、日向・入郷地域の玄関口としてふさわしく、景観に配慮した圏域のシンボルとしての駅舎及び高架橋を目指してきました。

新しくなる駅舎については、地場の耳川流域産杉材による集成材を大屋根梁とキャノピー（庇）に使用しました。（駅舎建設費（単体）：約14億円）

また、高架橋については、単線区間の橋脚を1柱式化し、圧迫感を軽減したデザインとするとともに、高架下空間の利便性を向上させるため、橋脚スパンを10mから15mへと広げることにより、景観デザインと併せて基礎工事費の削減も図っています。

(2) 駅舎木造化のための取り組み



駅舎に使用する材料については、地域で育んできた文化や県産材の利用促進を考慮し、地域産材100%の集成材を使用し、利用のための技術開発も含め新たな情報発信に取り組みました。

材質や製作方法など様々な検討が必要だったため、県（都市計画課、木材振興課、木材利用技術センター）、日向市、JR九州、学識経験者や建築家、デザイナー、木材関係者が協働し、木造化のための技術的課題解決に取り組みました。

使用にあたっては、木材と鉄の組み合わせによるハイブリット構造体であるため、クリープ試験やジョイント部の破壊試験等、数多くの検討を実施し、安全の確保を行っています。

この他、駅舎内部にも杉をふんだんに使った設計としており、梁制作時の切断により余った材料はベンチやカウンター等に利用する工夫を行っています。

3. 日向のまちづくり

(1) 駅周辺のまちづくり



日向市では、「まちなかに賑わいと活気があふれるまちづくり」を整備テーマとして、駅周辺の17.6ha区域において土地区画整理を進めており、都市計画道路6路線と東西駅前広場等の整備や土地の高度利用の促進、商店街の再編を図り、賑わいのある中心市街地の創出に取り組んでいます。

西口駅前の商業の核となる街区では、地元事業者による商業集積に向けた各種事業において、共同駐車場やパティオ（中庭広場）などの基盤施設整備や個別協調建替えが行われるなど、利便性や景観に配慮した、うるおいのあるまちなみづくりが進められています。街区の共同駐車場や中庭空間を利用して、日向十五夜祭りや七夕祭りが行われるなど、まちなかに賑わいが戻ってきています。

エリアのなかでも、駅前空間の核として整備したイベント広場は、イベント開催時には駅前道路と一体的に使えるように、歩車道縁石段差の解消や移動可能な車止めの設置が行われています。

さらに、地元住民による懇談会等が設置され、住民主体の活動が進展しています。

また、地元の木を使った統一感のある景観形成を図るなど、まちづくりのコンセプトについて、日向地区都市デザイン会議と各種協議会とで十分な連携が行われてきました。

さらに、地元住民による懇談会等が設置され、住民主体の活動が進展しています。

(2) 将来のまちづくり（まちづくり課外授業）

まちづくりの一環として、子供たちがふるさと日向を再発見し、愛し、誇りを持つきっかけになればとの思いから、県と市及び市教育委員会が主催し、日向市内の小学生を対象に「まちづくり課外授業」を行っています。

講師は、日向地区都市デザイン会議をはじめ、日向のまちづくりに携っていただいている政策研究大学院大学の篠原教授、東京大学の内藤教授、宮崎大学土木環境工学科の出口助教授、吉武助教授やデザイナーの方々等、多くの方に協力をいただきました。

その中で、地元の杉を使った屋台「移動式夢空間」の製作を行いました。

講師と子供たちが一体になり、杉山の現場見学を経て、屋台の構想と製作に至る合計 8 回の授業、50 時間にわたる取り組みが評価され、2005 年度のグッドデザイン賞（新領域部門）を受賞することが出来ました。完成した「創」「遊」「学」をテーマとした 3 つの屋台は、現在、まちなかでのイベント等にフルに活用されています。

【延岡市】

- ・日時；2026年4月16日（木）午前9時～11時
- ・場所；延岡駅周辺
- ・内容；延岡駅周辺整備周辺整備事業について

1、延岡市駅前複合施設「エンクロス」

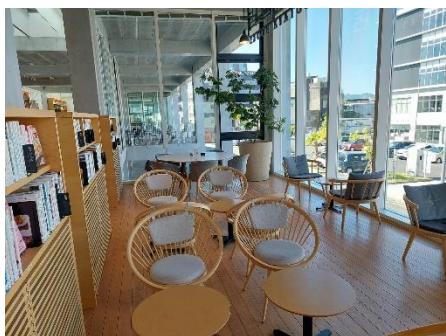


2018年4月1日、宮崎県延岡市がJR延岡駅前に複合施設「エンクロス」を開業しました。デザイン監修者を建築家の乾久美子、運営をカルチュア・コンビニエンス・クラブが受託しています。

「エンクロス」は2層からなる複合施設で、営業時間は8～21時となっています。

“1時間早く来て待っていたい”ような、誰もががくつろげる空間を目指して整備されました。

『特長』



エンクロスは、延岡市内で初めての年中無休の公共施設です。エンクロスの名称は公募で決定され、「ご縁」と延岡の「延」にちなみ「えんが交差する楽しい場に」との思いが込められています。

○市民活動スペースなどのオープンな空間でさまざまな活動やイベントが行われています。

○約2万冊の閲覧図書と蔦屋書店の本が館内のどこでも、スターバックスコーヒーとともに楽しめます。

○館内には、用途にあわせてさまざまなタイプの座席が約250席あり、電源席もあるほか、Wi-Fiも利用することができます。

○「NOBEOKA100 マイルプロジェクト」と題し、延岡を中心に、直径約160キロメートルの範囲にある地域物産を厳選して紹介・販売するコーナーも設置されています。

○親子で楽しむことのできるキッズスペースや授乳室、ベビーカーの貸出しなども行っています。また、おしゃれな雑貨や文具の販売も行います。

○延岡の情報発信ステーションとして、外部メディアを使い発信しています。

○エンクロス全体が待合スペースとなり、本を読んだり、コーヒーを買って飲みながら電車やバスを待つことができます。また、時刻表の掲示や観光情報をお知らせしています。

※詳しくはエンクロスのホームページをご覧ください。

<https://encross-nobeoka.jp>

2、延岡駅西口街区ビル

延岡駅西口街区ビルは、「仕事と生活の拠点として日常的に人が集まる場の創造」をコンセプトに、駅前街区の再開発推進事業により整備された施設で、旭化成(株)や商工会議所、IT企業などが入居し、200人を超える方々が働くビルとなっています。

延岡駅周辺を中心市街地では、市が進める複合施設等の整備と併せ、民間による駅前街区の整備が進められてきました。

このビルは、こうした取組と連携しながら、中心市街地に新たな人の流れとにぎわいを生み出す拠点として、令和4年3月に開業しました。



【施設の概要等】

- 構造 鉄骨造5階建
- 敷地面積 1,493.23平方メートル、延床面積 5,804.16平方メートル
- 1階 延岡名物高田饅頭、延岡信用金庫延岡支店、駅前やっば食堂(飲食)
w a i w a i P L A Y L A B (ケーブルメディアワイワイ)
※動画エンターテインメントを拡張する Technology×Movie ラボスペースをコンセプト

トに、動画制作をメインに「Technology」「Entertainment」「Education」の要素を取り入れ、先端テクノロジーや動画エンターテインメントで遊べる・学べる・発信・交流できる機会を提供するオープンスペースです。

- 2階 旭化成ネットワークス株式会社、株式会社プラージュ、株式会社まちづくり延岡、株式会社エッジコネクション、延岡市コワーキングスペース、延岡市お試しサテライトオフィス、延岡経済リンクージ機構

※延岡市では、地域産業と地域をつなぎ、外貨を得ることを目的に「延岡リンクージ機構」を立ち上げており、販路拡大、市外の人材を地元事業者と結びつける人材マッチング及び総合的な企業・創業支援をはじめとする様々な事業を推進しています。

- 3階 延岡商工会議所、アクサ生命保険株式会社延岡分室、日本政策金融公庫延岡支店

- 4階・5階 旭化成株式会社延岡駅前オフィス

詳しくは、株式会社まちづくり延岡ホームページをご覧ください。

<https://machi-nobeoka.jp/>

『考察』

中津駅は、丸吉や井筒屋、駅名店街のお土産売場も撤退し、中津市の顔としての機能が失われつつあります。駅乗降客のための駅だけでなく、市民が集い、賑わいのある場所とするためのリニューアルが必要です。早急に整備計画を策定し、事業に着手する必要があります。